

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520309

研究課題名(和文) 現代英米児童文学における男装—その意味と変遷

研究課題名(英文) Female Cross-Dressing in American and British Children's Literature since 1950

研究代表者

谷口 秀子 (Taniguchi, Hideko)

九州大学・言語文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：70179092

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円、(間接経費) 360,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題の主たる研究成果は以下の通りである。

1. 女性登場人物の男装を含む英米の児童文学作品の調査・分析を行い、重要と思われる男装の登場人物のデータベースを作成した。 2. 男装に焦点を当てて日本の少女漫画を調査・分析し、重要な男装の登場人物のデータベース化を行った。 3. フェミニズム童話を始めとする、ジェンダーにとらわれない女性像を描いている作品についても研究を行った。 4. 国際学会および国内学会において計5件の学会発表を行った。加えて、2014年6月にも学会発表を予定している。 5. 男装に関する論文2件を発表した。

研究成果の概要(英文)：The chief results of this research project accomplished are as follows:

1. Based upon a survey of female cross-dressing in children's books, including young adult novels, I have constructed a database of important cross-dressed female characters in contemporary American and British children's literature. 2. I have made a survey of Japanese manga for girls, focusing on female cross-dressing, and I created a database of important female cross-dressers. 3. I conducted research into feminist fairy tales and other gender-sensitive works which attempt to liberate the female characters from the restrictions of conventional gender-roles. 4. I made five conference presentations and am scheduled to make a presentation at a conference in June of 2014. 5. I have published two articles on female cross-dressing in journals.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：男装 ジェンダー 児童文学 少女漫画 フェミニズム童話 女性 ジェンダー越境

1. 研究開始当初の背景

本研究課題は、研究代表者が10年以上にわたって従事している、児童文学、漫画、アニメなどに見られるジェンダーを越境する女性登場人物に関する研究の一環としての、男装に関する研究の一部を構成するものである。

本研究を開始する時点で、研究代表者は、ジェンダーを越境する女性登場人物に関する研究を続けており、その一部として、女性登場人物の男装の研究を行っていた。研究論文「少女漫画における男装 ジェンダーの視点から」(2002)の発表以来継続してきたジェンダー越境装置としての男装に関する研究の主たる対象は、男装の女性登場人物を含む作品の数が比較的多い日本の少女漫画であった。また、これと並行して、研究代表者は、研究論文「Barbara Cartland, *Tempted to Love* 男装、ジェンダー、セクシュアリティ」(2003)の執筆以降、英米の大人向けおよび子ども向けの作品における男装についても関心を持って研究を行っていたが、英米の児童文学作品における男装については、十分な研究を行うには至っていなかった。

女性登場人物の男装については、日本の少女漫画における男装作品の数には及ばないものの、英米の児童文学においても、特に、ティーンエイジャーを対象とするヤングアダルト文学作品において、男装の女性登場人物を扱った作品が一定数存在し、現在でも依然として創作され続けている。しかしながら、英米の児童文学における男装に関するジェンダーの視点からの本格的な研究は少数であるため、研究代表者は、英米の児童文学における男装の研究の必要性を強く感じ、本研究課題を計画した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、主に1950年以降の英米の児童文学作品(ヤングアダルト文学およびアニメなども含む)における女性登場人物の男装の意味をジェンダーの観点から明らかにするとともに、作品における男装という女性登場人物のジェンダー越境装置が、時代の変化による女性の社会進出の増加に伴っていかなる変遷をとげているのかを可能な限り解明することである。

3. 研究の方法

本研究では、主に1950年代以降の英米の児童文学・ヤングアダルト文学作品などのうち女性登場人物の男装を含む作品を対象に調査研究を行う。調査の対象となる期間は、女性の社会進出がそれほど容易ではなかつ

た時期から1960年代以降の第二波フェミニズムと呼ばれる女性運動を経て、女性の社会進出が珍しくなくなった現代までの変動の期間である。

作品における女性登場人物の男装の意味を分析するために、ジェンダー越境装置としての男装を含む作品を中心に、収集と分析を行うとともに、収集した作品における男装の分類と特徴の抽出を行う。

また、比較の対象として、男装の女性登場人物を含む英米の小説・劇、および、男装の女性が多く登場する日本の少女漫画、さらには英米のフェミニズム童話などにも考察を加えるものとする。

以上にもとづき、男装の女性像の分類と分析を行い、男装の女性を扱った作品の理論的考察を行う。さらに、児童文学作品における男装の変遷の過程を可能な限り解明することを目指す。

具体的な研究方法は以下の通りである。

- (1) 男装の女性主人公・登場人物を含む英米の児童文学・ヤングアダルト文学作品などを収集する。
- (2) 入手した作品に目を通し、ジェンダーの観点から、それぞれの作品における男装の女性像を調査・分析し、データを集約する。その後、調査した作品の中から、男装の女性のデータとして特に重要と思われる作品を抽出する。
- (3) 比較検討の対象として、必要に応じて男性の女装を扱った作品、男装を扱った小説や少女漫画などを収集し、調査・分析する。
- (4) 比較対照のため、フェミニズム童話を始めとする、男装以外の手段で女性登場人物のジェンダー越境やエンパワーメントを達成する作品を収集し、調査・分析する。
- (5) (1)(2)(3)(4)と並行して、本研究の関連図書および文献の収集と分析を行う。収集する関連図書・文献の分野は主として以下の通りである。児童文学理論、ジェンダー論、フェミニズム、女性史、男装・女装関連、服飾史、現代史、文化史、社会学、社会理論など。
- (6) (1)(2)(3)(4)(5)にもとづき、男装の女性像の分類と分析を行い、女性登場人物の男装がどのようなジェンダー的な意味を持っているのかを、社会の変化に伴う変化も視野に入れて、できる限り明らかにする。

- (7) 研究によって得られた成果を、段階的に、論文や口頭発表などで公表する。
- (8) 研究成果の一部を、公開講座などを通して社会に還元する。

4. 研究成果

本研究課題に関して、概ね、上記の研究方法によって研究を行い、以下の研究成果をあげた。(「雑誌論文」などの表記における番号は、次項「5. 発表論文等」において記載した論文等の番号に対応している。)

- (1) 英米の男装を含む児童文学およびヤングアダルト文学作品などの収集を行い、入手できた作品について、分析を行い、ポイントとなると思われる作品を抽出した。また、抽出した作品を中心に、作品の内容の分析とデータベース化も進めた。

- (2) 比較対照のため、男装を含む日本の少女漫画、児童文学、ライトノベル、小説、アニメ、ドラマなどの作品を収集した。そして、入手した作品のうち、重要と思われる作品について、内容の分析とデータベース化を行った。

(2)に関連した研究成果を含む主な研究成果：

雑誌論文 「僕がかぐや姫」における「男装」(2012)：小説「僕がかぐや姫」における思春期の少女であるヒロインによる男言葉の使用という「修辭的男装」について分析した。

学会発表 「ジェンダー越境の模索 『おかあさま』における礼子の「男装」を中心に」(2014)：少女漫画黎明期に発表された『おかあさま』における「僕／ぼく」と自称する女性登場人物によって示されるジェンダー越境性について論じる。

学会発表 “The Reception of and the Reaction to Diana Coles’ *The Clever Princess* in Japan” (2012)：イギリスのフェミニズム童話 *The Clever Princess* におけるジェンダーにとらわれないヒロイン像の日本における受容について論じ、本作品のヒロイン像と少女漫画における男装のヒロイン像などとの比較対照を行った。

- (3) 比較検討のため、英米におけるフェミニズム童話作品の収集と分析を行った。

(3)に関連した研究成果の一部を含む

主な研究成果：

図書 『言語と文化の対話』(2012)：イギリスのフェミニズム童話 *The Clever Princess* の日本への翻訳と受容について論じた。

学会発表 “The Reception of and the Reaction to Diana Coles’ *The Clever Princess* in Japan” (2012)：イギリスのフェミニズム童話 *The Clever Princess* におけるジェンダーにとらわれないヒロイン像の日本における受容について論じ、本作品のヒロイン像と少女漫画における男装のヒロイン像との比較対照を行った。

- (4) 比較検討のため、男装以外の方法で女性登場人物にジェンダーを越境させることを試みている日英米の作品の収集と分析を行った。

(4)に関連した研究成果を含む主な研究成果：

学会発表 “*Spirited Away: Is It More Than Just an Animated Version of The Marvelous Village Veiled in Mist?*” (2013)：『千と千尋の神隠し』におけるジェンダーにとらわれない主体的で強いヒロインとその成長について、『霧のむこうのふしぎな町』との比較対照において分析した。

学会発表 “Gender-Sensitive Representations of Boys and Girls in Contemporary Japanese Children’s Books” (2012)：ジェンダーを排除しようとする試みの見られる日本の絵本を14冊取り上げ、それぞれのジェンダー排除の方法を分析した。

学会発表 「子どもの本などにおけるジェンダーとジェンダー解消の試み」(2012)：近年の絵本やアニメなどに見られるジェンダーを排除しようとする試みについて論じた。

- (5) 研究課題の関連文献として、ジェンダー論、女性史、現代史、文化史、男装、女装、服飾、社会学、社会理論、児童文学理論、漫画研究などに関する文献を収集し、文化的社会的な背景を考察した。

- (6) 国内外の学会において、上記(1)(2)(3)(4)(5)の研究成果の一部を含む内容の研究発表を行うとともに、学会において多くの研究者と研究に関する意見交換を行い、資料の収集を行った。

国際学会： The International Research Society for Children's Literature (IRSCSL) (2013、2011)、2012 International Conference on Children's Literature (2012)

国内学会：イギリス児童文学学会 (2012)、日本語ジェンダー学会(2014、2012))

- (7) 現代の英米児童文学における重要な男装作品であると思われる作品に関する論文を公刊した。

(7)に関連した研究成果：

雑誌論文 「*Girl in Blue*における男装」(2014)：男装して南北戦争に従軍する少女を主人公とするアメリカのヤングアダルト小説 *Girl in Blue*における男装の意味と男装がもたらすジェンダー越境がヒロインに与える影響について論じた。また、男装作品としての本作品の特徴についても論じた。

- (8) 大学の公開講座の講義および自治体の市民向け講演を通して、研究成果の一部を社会に還元した。

(8)に関連した研究成果の一部の社会への還元：

公開講座「児童文学と人生の選択肢 ジェンダーと多文化主義の視点から」(2013)

講演「知らないうちにハマってる？シンデレラの罠！」(2011))

以上の研究活動により、現代の英米の児童文学における男装の意味について、多角的な観点からある程度明らかにすることができた。また、社会の変化に伴う児童文学における男装の変遷についても、その概要を把握することができた。今後は、本研究課題の研究の遂行において得られた知見や研究成果を集約した上で、さらなる研究を行い、総括的な論考の構築を目指す予定である。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

谷口秀子「*Girl in Blue*における男装」『言語科学』(九州大学言語研究会), 第49号, pp. 1-6, 2014年。(査読なし)
谷口秀子「「僕はかぐや姫」における「男装」」『日本語とジェンダー』(日本語ジ

ェンダー学会), vol. XII, pp. 13-27, 2012年。(査読あり)

〔学会発表〕(計 6 件)

谷口秀子「ジェンダー越境の模索 『おかあさま』における礼子の「男装」を中心に」日本語ジェンダー学会第15回年次大会, 2014年6月21日, 北九州市立大学。(査読あり)(発表予定: 採択済み)

Hideko Taniguchi(谷口秀子)“*Spirited Away: Is It More Than Just an Animated Version of The Marvelous Village Veiled in Mist?*”, The 21st Biennial Congress of the International Research Society for Children's Literature, 2013年8月13日, University of Maastricht, The Netherlands. (査読あり)

Hideko Taniguchi (谷口秀子) “Gender-Sensitive Representations of Boys and Girls in Contemporary Japanese Children's Books”, 2012 International Conference on Children's Literature, 2012年11月17日, Soochow University, Taiwan. (査読あり)

Hideko Taniguchi (谷口秀子) “The Reception of and the Reaction to Diana Coles' *The Clever Princess in Japan*”, 日本イギリス児童文学学会第42回研究大会国際シンポジウム, 2012年11月24日, 大東文化大学板橋キャンパス。(依頼)

谷口秀子「子どもの本などにおけるジェンダーとジェンダー解消の試み」, 日本語ジェンダー学会第13回年次大会シンポジウム, 2012年6月16日, 武蔵野大学有明キャンパス。(依頼)

Hideko Taniguchi (谷口秀子) “To Eat or Not to Eat: Fear and Safety in *Arashi no Yoru ni*”, The 20th Biennial Congress of the International Research Society for Children's Literature, 2011年7月7日, The Queensland University of Technology, Australia. (査読あり)

〔図書〕(計 2 件)

山崎和夫, 松村瑞子, 谷口秀子 他 18名『言語と文化の対話』, 花書院, iv+274pp, 2012年.
高本孝子, 池園宏, 加藤洋介, 谷口秀子 他 15名, 『新世紀の英語文学 ブッカ一賞総覧 2001-2010』, 開文社出版, xvi+392pp, 2011年.

〔その他〕(計 2 件)

(1) 研究成果の社会への還元

公開講座

谷口秀子「児童文学と人生の選択肢 ジェンダーと多文化主義の視点から」, 九州大学大学院言語文化研究院公開講座『文学と人生』, 2013年11月9日, 九州大学箱崎キャンパス.

講演

谷口秀子「知らないうちにハマってる? シンデレラの罠!」, 糸島市男女共同参画入門講座, 2011年8月1日, 糸島市男女共同参画センター ラポール.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

谷口秀子 (Hideko Taniguchi)
九州大学・大学院言語文化研究院・教授
研究者番号: 70179092